

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成24年5月31日現在

今月の重点活動

農事組合法人本巣ファーム。5/10初のアスパラガス定植

岐阜農林事務所では、「販売額1億円の産地づくり」を目指して、アスパラガスの生産拡大を推進している。

昨年度、農事組合法人本巣ファームへ、園芸品目への参入と水稲との農作業の効率化に向けて、アスパラガス栽培導入を誘導し、今年度からアスパラガス生産を開始した。

新たにハウス施設を10a設置し、5月10日に約2,000本のアスパラガスを定植した。来年3月からの出荷に向けて、農業普及課は重点的な栽培技術指導を行う。



主要農作物の生産振興

■いちご

(ぎふいちご美人プロジェクト)

ぎふいちごの産地では、3月以降に多量に発生する、規格外（過熟果含む）を使った「ぎふいちごパウダー」を本格的に製造を始めた。そのパウダーの利用を進めるため、パウダー製造を行っている(株)スコラボとJAぎふ岐阜市いちご部会、NPO法人子育て支援会が連携し、「ぎふいちご美人プロジェクト」を立ち上げ、化粧品の開発を始めた。普及では、各協力団体が連携出来るよう指導を行った。



■にんじん

春夏にんじん収穫始まる

各務原市の重要野菜であるにんじんの出荷が5月11日に始まり、目揃え会が開催された。

各務原市は徳島、青森・北海道の間をつなぐ産地として、市場から期待されており、農業普及課は、農協とともに安定供給に向け、計画的出荷について指導を行った。

今年は、は種以降の1～3月で低温が続き、生育は全体的に遅延し、Mサイズが中心であるが、回復傾向である。

今後収穫は計画的に行われ、7月上旬まで出荷される予定である。



出荷目揃え会

■えだまめ

(岐阜えだまめ出荷始まる！)

24年産岐阜えだまめの出荷が5月4日から始まった。2月～3月にかけての低温の影響により、約1週間遅れたが品質は良好。

農業普及課では、ハウスえだまめの目揃え会において病虫害防除の徹底による品質管理、土づくりなどについて指導を行った。

また、9日には食農教育の一環として、岐阜女子短期大学の学生による定植作業体験が行われ、学生からは、「初めての体験で収穫が楽しみ」などの声が聞かれた。



■かき

(各地で大玉生産に向けた講習会を開催)

管内の各かき振興会では、5月6日から17日にかけて摘らい講習会を岐阜市、本巣市、瑞穂市、北方町、羽島市で計20回開催し、農業普及課は、大玉及び高品質生産に向けた摘蕾技術指導を行った。また、農協営農指導員やシルバー人材センター等でも講習会を行い、産地の技術向上を図った。

柿の生育は、春先の低温で1週間程度遅れていたが、3日程度遅れまで回復してきている



講習会(岐阜市)

担い手の育成・確保

■集落営農組織

(アグリかかみ活動開始)

昨年、各務原市で初めて設立された農事組合法人アグリかかみにおいて、5月17日に第1回通常総会が開催された。平成24年度から約12haの農地を集積し、水稻、飼料用米、キャベツ等栽培に取り組む。普及課からは、ほ場での労働管理や栽培記録を簡単に取りまとめられるソフトの提供、組織運営規程づくりなどの助言を行った。

地域の動き等

■JAぎふおんさい広場

(園芸塾開催)

農産物直売所の仲間づくりに向けて園芸塾が企画され、各地で開校式を開催した。農業普及課でも講師としてサポートし、夏野菜の栽培管理や土づくり、農薬の適正使用について指導した。今後も実習を中心に、月1回の頻度で実施していく予定。



■夏秋なす(本巣地域)

(5/15 なす塾開催にむけて予備学習会を開催)

昨年新規加入の栽培者と、なす栽培に関心のある農家2名の計3人が出席。ほ場準備～定植までの栽培管理のポイント等の座学の後、現地ほ場の見学を行った。あいにくの雨であったが、なす部会員から具体的な栽培の話を熱心に聞く等3名とも前向きな姿勢での学習会となった。

本巣支店管内には、6月のJA広報にチラシを入れ、7月のJA広報では記事により「なす塾受講生」の募集を広く行う予定。



なすのほ場にて

■花き

(母の日商戦終了)

花きの最大需要期である5月12日の母の日に向け、カーネーション、ポットローズなどの出荷が最盛期を迎えた。近年は、通信販売などの市場外取引も増加しており、母の日直前まで、生産者は宅配発送に追われた。農業普及課は、良品生産に向け、病虫害診断に基づいた管理指導を行った。



出荷状況(岐阜市)

